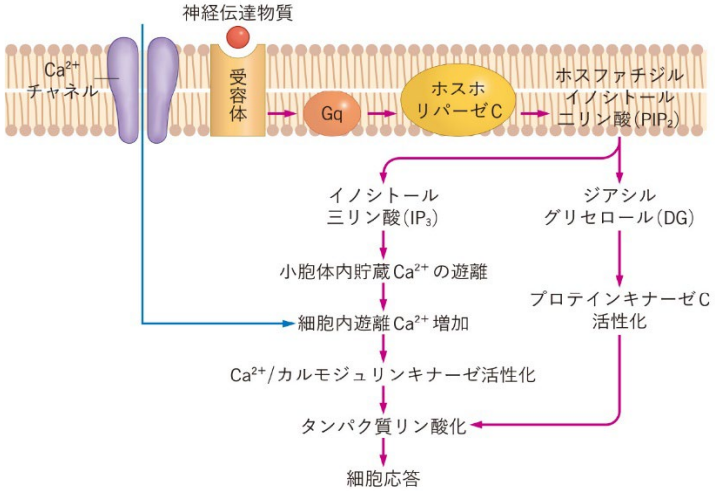
正　誤　表

「機能形態学（改訂第 5 版 第 1 刷）［電子版付］」
下記の箇所に誤りがございました。謹んでお詫びし訂正いたします。

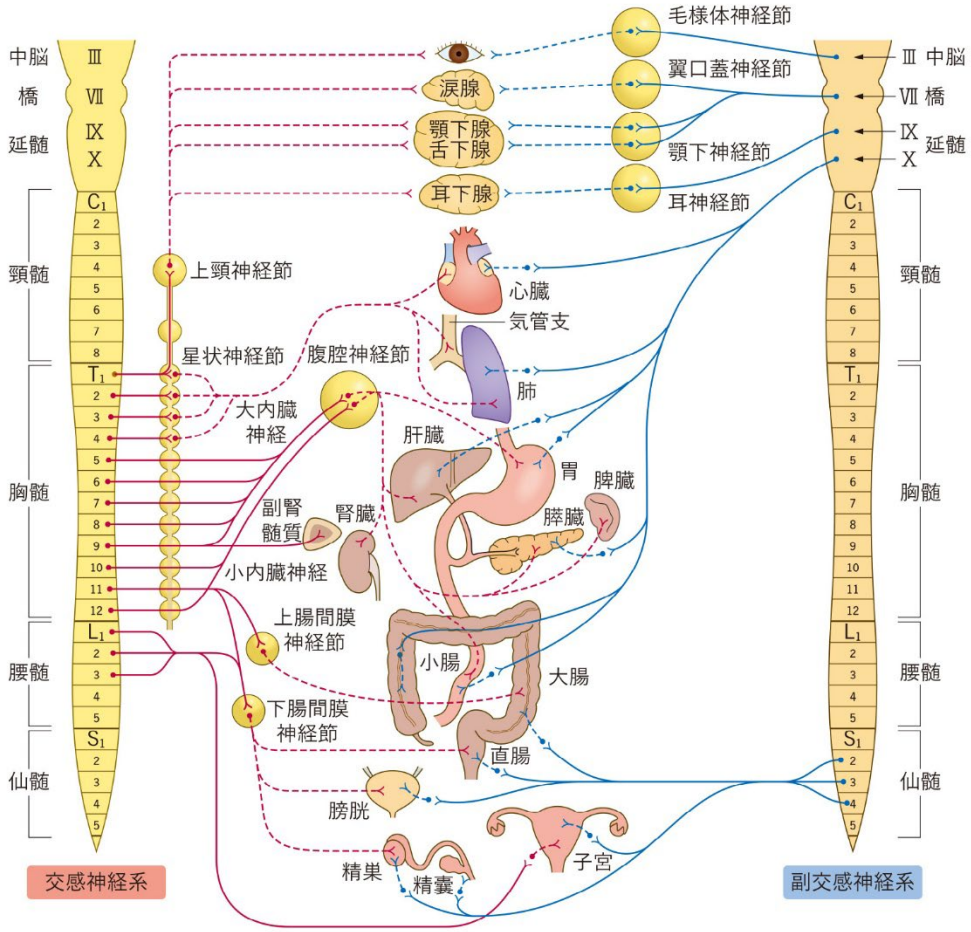
頁	該当箇所	誤	正
24	図 1-30	図の誤り（情報伝達の矢印に誤りがあり，右図に差し替え）	 **図 1-30　アドレナリン α_1，アセチルコリン M_3 受容体の情報伝達（Gq タンパク質共役型受容体）**

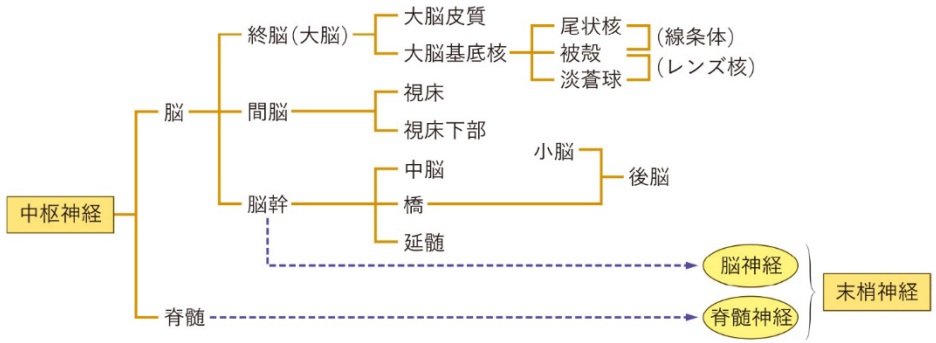
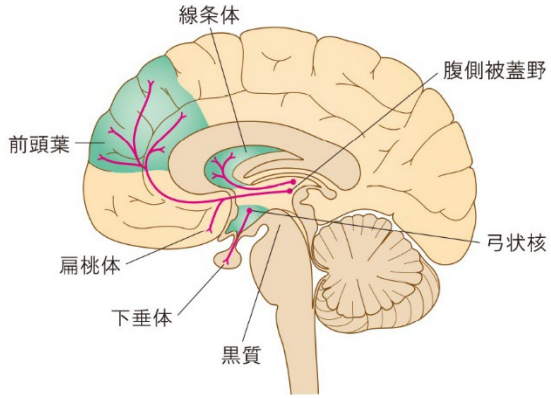
51	表 2-4	表の誤り（汗腺分泌の項に誤りがあり，右表に差し替え）	

表 2-4　自律神経の拮抗的二重支配

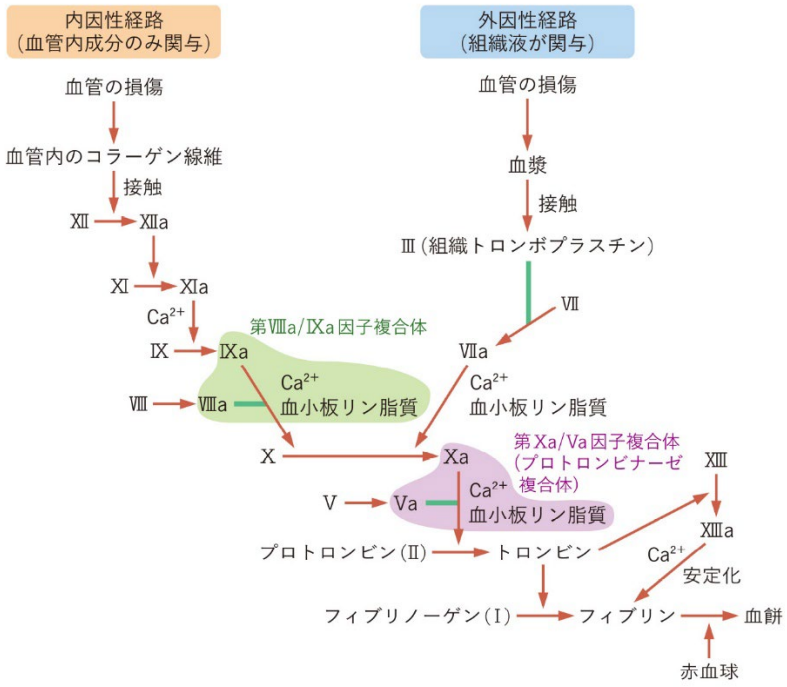
器　官	交感神経系		副交感神経系	
	主な受容体	刺激効果	主な受容体	刺激効果
眼				
瞳孔（虹彩）散大筋	α_1	収縮（→散瞳）		
瞳孔（虹彩）括約筋			M_3	収縮（→縮瞳）
毛様体筋	β_2	弛緩（→遠視）	M_3	収縮（→近視）
心臓				
洞房結節	β_1	心拍数増加	M_2	心拍数減少
房室結節	β_1	伝導速度増加	M_2	伝導速度減少
心房筋	β_1	収縮力増大	M_2	収縮力低下
心室筋	β_1	収縮力増大	—	—*
血管				
脳	α_1	収縮	—	—*
皮膚・粘膜	α_1	収縮	—	—*
腹部内臓・腎血管	$\alpha_1 \gg \beta_2$	収縮	—	—*
冠状動脈・肺血管	$\beta_2 > \alpha_1$	拡張	—	—*
骨格筋	$\beta_2 > \alpha$	拡張	—	（拡張）
気管支筋	β_2	弛緩	M_3	収縮
消化器				
唾液腺	α_1，β	刺激（粘稠液少量）	M_3	刺激（希薄液多量）
胃腸平滑筋	α，β_2	弛緩	M_3	収縮
括約筋	α_1	収縮	M_3	弛緩
泌尿器				
排尿筋	β_2，β_3	弛緩	M_3	収縮
膀胱括約筋	α_1	収縮	M_3	弛緩
皮膚				
汗腺分泌	M_3	全身的分泌促進		—
	α_1	局所的分泌促進		—
立毛筋	α_1	収縮		—
肝臓	α_1，β_2	グリコーゲン分解と糖新生	—	—
脂肪細胞	α_1，β_1，β_2，β_3	脂肪分解	—	—
膵臓				
島（β 細胞）	α_2	分泌減少		—
	β_2	分泌増加		
腎臓				
レニン分泌	α_1	減少	—	—*
	β_1	増加	—	—*

—：反応が起こらない，＊：神経支配がない，（　）：反応の生理的意味が低い

53	図 2-13 および図説明文	図および図説明文の誤り（副交感神経系の腎臓を削除，実線と点線の説明文の欠落，右図に差し替え）	 図 2-13　自律神経遠心性線維の分布 Ⅲ：動眼神経，Ⅶ：顔面神経，Ⅸ：舌咽神経，Ⅹ：迷走神経 C：頸髄，T：胸髄，L：腰髄，S：仙髄 実線：節前線維，点線：節後線維

62	図 3-2	図の誤り（終脳の後に（大脳）が欠落，右図に差し替え）	 **図 3-2　中枢神経の区分**
73	図 3-17	図の誤り（黒質の示す位置が誤り，右図に差し替え）	 **図 3-17　ドパミン作動性神経系の主な投射経路** 黒質から線条体へ向かう経路，腹側被蓋野から大脳皮質前頭葉，扁桃体にいたる経路，視床下部の弓状核から正中隆起，下垂体にいたる経路を示す． ほかに，腹側被蓋野から辺縁系（海馬，扁桃体）や側坐核に投射する経路もある．

<table>
<tr>
<td>130</td>
<td>表 5-2</td>
<td>表右側の説明を削除，右表に差し替え</td>
<td>
<table>
<tr><th colspan="4">表 5-2　眼運動機能</th></tr>
<tr><th colspan="2">機　能</th><th>効果器</th><th>作　用</th><th>支配神経（脳神経）</th></tr>
<tr><td rowspan="6">骨格筋</td><td rowspan="5">眼球運動（外眼筋）</td><td>上直筋</td><td>眼球の上転と内旋</td><td>動眼神経（Ⅲ，対側性）</td></tr>
<tr><td>下直筋</td><td>眼球の下転と外旋</td><td rowspan="3">動眼神経（Ⅲ，同側性）</td></tr>
<tr><td>内側直筋</td><td>眼球の内転</td></tr>
<tr><td>下斜筋</td><td>眼球の上転と外旋</td></tr>
<tr><td>上斜筋</td><td>眼球の下転と内旋</td><td>滑車神経（Ⅳ，対側性）</td></tr>
<tr><td>外側直筋</td><td>眼球の外転</td><td>外転神経（Ⅵ，同側性）</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">眼瞼の開閉</td><td>眼瞼挙筋</td><td>眼瞼挙上</td><td>動眼神経（Ⅲ，両側性）</td></tr>
<tr><td>眼輪筋</td><td>眼瞼閉鎖</td><td>顔面神経（Ⅶ，両側性）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">平滑筋</td><td rowspan="3">結像の調節（内眼筋）</td><td>毛様体筋（輪状線維，斜走線維，縦走線維）</td><td>遠近調節</td><td>動眼神経（Ⅲ，副交感神経）
Th_1 交感神経</td></tr>
<tr><td>瞳孔括約筋</td><td>縮瞳</td><td>動眼神経（Ⅲ，副交感神経）</td></tr>
<tr><td>瞳孔散大筋</td><td>散瞳</td><td>Th_1 交感神経</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
<tr>
<td>154</td>
<td>本文「b．真皮」の項の③</td>
<td>免疫担当のランゲルハンス細胞や，</td>
<td>免疫担当のマクロファージや樹状細胞，</td>
</tr>
</table>

227	図 8-16	図の誤り（内因性経路に誤りがあり，右図に差し替え）	 図 8-16　血液凝固の機序
304	図 11-11 説明文(a)	前葉ホルモン促進・抑制ホルモンを産生する神経細胞（黒色）と，後葉ホルモンを産生する神経細胞（赤色）を示してある．	前葉ホルモン促進・抑制ホルモンを産生する神経細胞（青色）と，後葉ホルモンを産生する神経細胞（緑色）を示してある．

2026 年 2 月 24 日

株式会社南江堂